

『夏・街』

～ natsu・machi ～

プレイヤー用資料

「わたし、夏を待っているの。」

妹は行ってしまった。永遠の夏の中へ。

一年後、兄に届いた「夏街」行きの切符。

白く灼けるような日差しと、
日光写真の色濃い影、
うだるような湿った空気と、
水のすがすがしさ。
大きな胸の空隙と、
繁る常緑樹の葉の色。

・・・そして、全ては永遠の緑の中に。

◆ PC 一覧

● 切符を持つ少年／少女 (17 歳)

失踪した妹の手がかりを求めて、「夏街」へ向かいます。

父母と妹 (遥香) の四大家族。

しかし、遥香は一年前に失踪してしまいました。

それは、失踪する前日のこと、

「わたし、夏を待っているの。」

遥香が唐突にそんなことを言いました。

五年前に死んだ大兄 (人物紹介参照)。大兄を慕っていた遥香は、以来、彼のことを思い出させる「夏」が来るのを嫌っていたはずです。

ようやく気持ちの整理がついたのか、と思っていたところ、次の日、遥香は失踪してしまいます。

そして一年が過ぎ、

貴方の元に「夏街行き」の切符が届きました。

送り主不明の、うっすらと柑橘類の匂いがするオレンジ色の封筒。その中には「夏街行き」と記された切符が入っていました。

貴方は確かにそれを見たことがありました!

遥香があの手をもらしたとき、手にしていたのを。

「わたし、夏を待っているの。」

何かの玩具かと思っていたけれど、そうではなかったのでしょうか?

あれから、ほとんどそのままにしてある遥香の部屋を探しましたが、そこからはそんな切符は見つかりませんでした。

実家は結構な田舎、ということにしておいて下さい。

● 影をなくした少年／少女 (17 歳)

上の切符を持つ少年／少女の友人です。

幼い頃、森の中にある「夏街」という場所に行ったときの話をお爺さんから聞いたことがありました。

そこは、幸せに満ちた場所だった、とお爺さんは言いました。でも、お爺さんは「大事なもの」のために、「夏街」から帰ってきたのだと、そう続けました。

その時、貴方は「夏街」へ連れていってもらう約束をしましたが、結局うやむやのうちに叶わず、そのままそのことは忘れてしまっていました。

そして、一ヶ月前、お爺さんは天寿を全うしました。それをきっかけに、お爺さんとの約束、そして「夏街」のことをふと思い出しました。

そして、今、貴方の友人の手に「夏街行き」の切符があります。貴方は、奇妙な縁に導かれるように、夏街を探しに行くことにしました。

.....

出発の日の前夜、貴方は奇妙な夢を見ました。

日光が眩しい。

周囲は、深い緑の葉の林でしたが、日は辺りに強く差して、貴方は地面に濃い影を焼き付けていました。

あまりに強い日差しに、まるで日本でないどこかにいるように感じます。

数歩歩いてみます。ん?

なんだか違和感を覚えて下を見ると、貴方の影はさっきの場所に焼き付いたままで、動かない!

そして、貴方の足元に、貴方の影はなくなっていたのです。

朝、起きて、おそろおそろ外に出てみます。

貴方の影はやはりありません。

貴方は影をなくしてしまっていたのです。

●小母・小父 (20 歳以上。大学生くらい?)

影を亡くした少年/少女の小父・小母

「夏街」に続くという森に詳しいことから、案内人をつとめます。

その森は、幼い頃、父親 (影を亡くした少年からすればお爺さん) の正さんによく連れていってもらった場所です。

森を抜け、その向こうの川によく遊びに行ったのです。

現在は、野洲には住んでいないなら、お婆ちゃん一人暮らしに? もしくは、兄夫婦がいるとか。

そのあたり、考えて下さい。

●最愛の者を亡くしたばかりの男/女

貴方は、半月前に最愛の者を亡くしてしまいました。

まだ、その哀しみは癒えていません。

最愛の者はそのいまわに、こんな言葉を口にします。

「どうしても辛かったなら、「夏街」へ行って。」

◆ NPC 一覧

・大兄 (史郎)

五年前に病気で亡くなりました。

切符を持つ少年の従兄です。

享年 17。

水泳をしていて、県下でも有名。

夏と言えば思い出されるのは、まさに彼のことでした。

よく日に焼けているというのと、オレンジが好物だったことが印象的です。

・正 (ただし)

野洲の実家のお爺さんです。

ひと月前に亡くなりました。

お婆ちゃんはまだ生きています。

・遥香 15 歳で失踪。生きていれば 16 ?

大兄のことを親のように慕っていました。

ショートカットで黒い髪。

たいていは、わりとボーイッシュな格好をしていた。

切符を持つ少年にとっては、結構大人っぽい子だった、という印象があります。

◆導入

1992 年 5 月 3 日

日曜日 憲法記念日

京都

『最愛の者を亡くしたばかりの男/女』
の方の設定がだいたい終わったところで、
導入部だけを先に行います。

◆最後に

マスターの主張するところとプレイヤーの主張は違って当たり前だ、ということをお頭に思いといてください。

また、物語の真相はあらかじめ用意されてないかもしれません。自分で不明なところを感じるままに埋めてゆくようなつもりでやっていただけると嬉しく思います。

それでは。